

エイブリック田中誠司社長「AIブームで半導体材料の納期2倍に」 – Leader's Voice

2026/04/17 11:00 日本経済新聞電子版 1007文字

半導体市場は人工知能（AI）向けがけん引する一方、自動車や産業機器向けは需要回復が遅れている。ミネベアミツミ子会社の半導体メーカー、エイブリック（東京・港）の田中誠司社長は「AIブームのしわ寄せで（AI向け以外の）半導体材料の納期が2倍になった」と話す。

——市場はAI半導体の独り勝ち状態です。

「製造工程で使う絶縁材料や保護剤はAI半導体への供給が優先されて（温度や湿度などをデジタル信号に変える）アナログ半導体への納期が延び、供給量も減った。保護剤の一部は納期が2カ月だったのが4カ月になった。我々も通常より需要予測を長めに出して材料メーカーに伝えるなどしている」

——2026年のアナログ半導体市場の見通しは。

「世界半導体市場統計（WSTS）の予測では前年比7.5%伸びる。エイブリックは10%超の売上高成長を見込むが、足元の市場を見ると、全体の成長率は7.5%に届くか不透明だ。産業機器や車載の需要はまだ強くなく、けん引役となるアプリケーション（用途）が登場していない」

——電気自動車（EV）関連の需要も低調です。

「EVメーカーでは部品の電圧を（一般的な12ボルトから）48ボルトに高める動きがあり、現状は米テスラが採用している。電圧を高めると電流を抑えることができ、電線などの部材を減らせるので車体の軽量化につながる。他の自動車メーカーからは元々は28年ごろに対応する半導体を要求されていたが、最近は28～30年ごろと先延ばしになっている」

——メモリー不足の影響は。

「台湾のモジュール（複合部品）メーカーが（半導体メモリーの）DRAMが手に入らず、製品と一緒に搭載するエイブリックの集積回路の発注を減らすといった間接影響が出ている。全体の売上高に与える影響は軽微だが、スマートフォンなど民生品では生産調整が出る。特に中国など低価格帯メーカーは打撃が大きい。メモリーは年間契約で供給数量を決めるため、今後、契約更新のタイミングで影響が顕在化するのではないかと」

（聞き手は向野峻）

田中 誠司氏（たなか・せいじ） 1985年（昭60年）成蹊大工卒、岡村製作所（現オカムラ）入社。88年日本モトローラ（現モトローラ・ソリューションズ）、04年フリースケール・セミコンダクタ・ジャパン（現NXPセミコンダクターズ）、12年セイコーインスツル、16年エスアイアイ・セミコンダクタ（現エイブリック）執行役員。23年から現職。

許諾番号NK002734 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。



インタビューに応えるエイブリックの田中誠司社長（12日、東京都港区）

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.